

長峰城址見学会に60人

越後長峰城址保存会の遺構見学会が9日行われました。今年の見学会には区内外から60人を超える人たちが集まりました。

今回は初めて郷土史家、地質研究者などの専門家の力を借りることなく、地元ガイド（佐藤忠博さん、上野正さん）だけによる案内、解説でした。全体説明、各遺構説明ともパンフレット、「長峰城ものがたり」（増補版）などをもとにわかりやすい紹介となっていました。これまでの調査などでわかったことも入っていましたし、地元に住んでいる人ならではの説明もある、とても良かったと思います。

全体説明では、大規模な土塁や空堀、やぐら台が残っていることなど長峰城の5つの魅力、見どころが紹介されました。イラストは南西物見やぐら台。



議長の会派所属めぐり疑問の声 第2回議会基本条例検証委員会

上越市議会の第2回議会基本条例検証委員会が11日の午後、開催されました。この中で「議長の責務」（議会を代表して中立公正な職務遂行に努める、ほか）について活発な議論が行われました。

現在、飯塚議長は、議長に選出された後も会派「輝」に所属していますが、この点について、いくつもの会派選出委員から疑問や批判の声があがり、議論になりました。

議論の基礎となる検証シートに書きこまれた内容を見ると、「今後も中立公正な職務遂行を担保するため、議長は会派に属さないことを明文化することを提案する」（会派「みらい」）、「議長は会派に属さず中立公正な立場を確保すべき」（会派

「創風」）、「さくら」に中立性を高めるには議長の会派離脱も望ましいのではないかと（「公明党」）、「議長が会派に残るのは中立公正とは言えない」（会派「市民クラブ」）などとなっています。

日本共産党議員団は、言うまでもなく、議長は会派離脱すべきという立場です。

この日の検証委員会では、最終的に、条文はそのままとしましたが、議長の会派離脱については、検証委員会の栗田委員長が次回の各派代表者会議で「議長の会派離脱をめぐるルールづくり」について提起することを約束しました。早ければ、その場で、飯塚議長は会派離脱を表明することになると思います。



平和、家族の健康を祈って花火大会

大島区熊田で15日、「ふるさとふれあい交流会」事業の花火大会がありました。

「これからもヨロシクいよんぎの一発（笑）」「正面倉がやさしく見守る自慢の熊田」「家族の健康祈る」「人類が数百万年 生かされてきた地球を大切に 平

和を守り 助け合いますように」などの思いを込めて、59発の花火が打ち上げられました。10分くらいの打ち上げでしたが、みんな歓声をあげていました。熊田の花火は、この夏、上越市内で唯一の花火大会となるかも知れません。

市内各地で平和の鐘が鳴る

6日、9日、15日と市内各地のお寺で“平和の鐘”が鳴らされました。

私は柿崎区の浄福寺で鐘をつかせてもらいました。



【マツムシソウ】マツムシソウ科の越年草・多年草。漢字で「松虫草」と書きます。高山植物。市内でも標高の高い草原にありますが、減少傾向にあります。保護対象植物です。花は薄紫色で、8月～10月に咲きます。一見したところコスモスの花と言う感じです。花言葉は「不幸な愛」「私はすべてを失った」。ギリシャ神話に由来があるとか。



はしづめ法一の活動レポート

No.1973 2020.8.23
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六二〇回 うんめがどお

今年のお盆の最中、一五日の朝のことで、大島区細越まで行く用事があったので、居間にいた母に聞いてみました。

「これから大島へ行くけど、おまん、どうしんね」

母はすぐに「行く」と答えたのですが、以前のような体調ではありません。ベッドで横になることが多い状態です。最低限にしかって行き先を決めることにしました。それで、もうひとこ質問しました。

「うんめがどお、日本一うまいトコロテンにしっかね、それとも板山の杉(屋号)んちにするかね」

いま考えてみると、これは母にとっては答えが難しかったかも知れません。どちらも母にとっては気持ち揺さぶられるところだったからです。ただ、母の体調のことを思えば、そう長い時間をかけることはできませんでした。それに、家族の者から「ばあちゃん、あんまり連れまわさんようにしないや」とくちを刺されてしまった。

ところが、私の問いかけに対する母の答えはというと、「うんめがどお」

だったのです。トコロテンが幼友達の家か、どちらかを答えると思っていたので、ちょっと驚いたのですが、正直言ってしまうと、それだけ行動する意欲はあるというくらいです。

午前九時過ぎに家を出て、朔日峠(ついでにとうげ)経由で大島に向かいました。

細越の高橋新聞店に寄って、「日本一のトコロテン」に着いたのは午前九時五十分。すでに駐車場には何台も車がとまっていて、行列がつかられ始めていました。すごい人気です。

私も列に加わりました。割合と早い順番でしたので、開店後一〇分くらいでトコロテンを手にすることができました。ただ、母は車から降りて移動するとなるとエネルギー

ギーを使いますので、お持ち帰り用を選び、割り箸をつけてもらいました。

母はひと昔前までは自分でトコロテンをつくり、味については自信を持っていました。車の中でトコロテンを食べた後、どういふ言葉を発するか気になりました。

「うんめがどお、味は……」

と聞くと、さすが、味に定評のあるトコロテンですね。

「うんめがどお」という言葉が返ってきました。この言葉を聞いただけで私は、母に声をかけて良かったと思いました。

トコロテンを食べたところで、板山の杉のかちやのところへ電話をしました。本当は家で電話をかけようと思ったのですが、もし途中で、母が体調を崩し行けなくなったら、がっかりさせてしまうと考えて、この時点までかけなかつたのです。

杉の家に着くと、乗用車を前庭まで乗り入れ、二人が玄関先で話をできるようにしました。母は助手席に乗ったままです。

「来たでね」、そう言って声をかけると、杉のかちやは、台所の冷蔵庫から出してきたのでしよう、冷えたエゴを二皿、おぼんに入れて私たちのところへ運んでくれました。一つは私のために、いまひと皿は母のためです。

エゴは私も母も大好きな食べ物です。私は皿の上の四切れのエゴをすぐに平らげちゃいました。母は、一切れ一切れ、ゆっくり味わって食べました。杉のかちやはその様子を助手席の窓から覗き込むようにして見て、「また会えるとは思わなかったじゃ」と大喜びでした。

この日、母は大好きなトコロテンとエゴのどっちも食べることができました。四切れは無理だと思っていたエゴも全部食べ、ここでも「うんめがどお」と言いました。

今年も切手画展

清里区東戸野の敬西寺で今年も切手画展が開催されました。私は18日、鑑賞させていただきました。

私が訪ねた時は、ご住職から、切手を使った絵をどう作っていくのか、きめ細かく教えていただきました。緑色一つとっても様々な色合いがあり、それぞれの色を上手く活用されていることを知って驚きました。

お御堂には、坊守さんの素敵な水彩画も数点展示されていました。夫婦で絵画展に取り組むというのは最高です。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月12日(水)	8月19日(水)
上越南消防署	0.053	0.040
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.057	0.050
高士分遣所	0.053	0.053

心の重荷がとれました

先日、大湊区在住のSさんからお手紙をいただきました。

そこには「あなたの活動レポートを読み、昭和20年7月16日に直江津空襲があったのを拝読し、やっと心の重荷がとれました」とありました。Sさんは活動レポ

ート1968号(7月19日発行)で私が書いた市の平和展についての記事を読み、いまから75年前の思い出がありありとよみがえったということです。直江津では、昭和20年5月5日だけでなく、同年7月16日にも空襲があった、それだけの記事ですが、それが役立ったとのこと。嬉しいお手紙でした。